

幅広い研究支援で 若い研究者にチャンス

貝淵 弘三

大学院医学系研究科
附属医学教育研究支援センター
分析機器部門 部門長

分析機器を集約してリニューアル 常駐の技術職員が研究者をサポート

名古屋大学大学院医学系研究科 附属医学教育研究支援センター「分析機器部門」は、2014年8月、これまで数か所に分かれて設置されていた分析機器を医系研究棟3号館に集約し、新しい機器も導入してリニューアルしました。これにより利用者の利便性は格段に高まり、共通機器を多くの研究者でシェアするという発想のもと、長年構築してきた本部門の機能が理想的に整いました。各機器はバイオイメージング研究室、分子構造解析研究室、細胞機能解析研究室、遺伝情報解析研究室、医工連携室の5つの研究室に分かれて設置されています。また、それぞれの研究室には技術職員が常駐し、現在、6人の技術職員による機器の徹底した

管理と、講習会や分析結果の検討など研究支援サービスが行われています。質量分析計や光学顕微鏡などは日進月歩で高度化し、研究者だけで使いこなすのは容易ではありませんが、専門性に優れた技術職員との連携により、効率的に研究を進めることができます。

このように機器の充実はもちろん、技術職員による質の高いサービスを利用者に提供できる本部門は、全国の大学のモデルになっています。

学内、学外あわせた利用実績が 年々増加

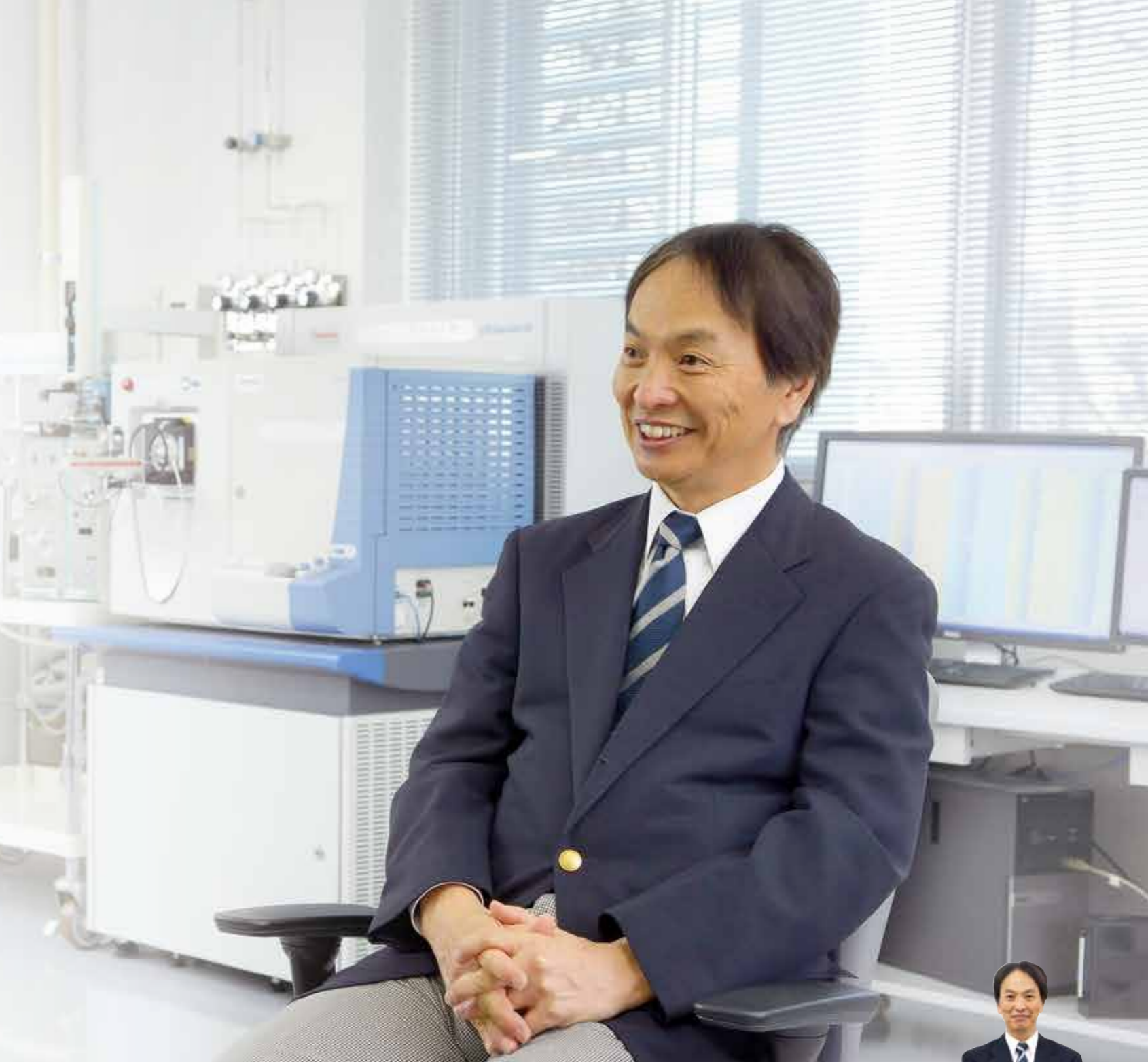
2007年よりすべての機器の利用状況を集計・公表しています。学内・学外を合わせた利用件数は、2007年は約6,000件だったのに対し、2013年は約13,000件に増加。2014年はリニューアルに伴い、2か月間使用できない状態でしたが、約12,000件の利用がありました。また技術職員によりシリーズで行

われている講習会の実績は、2007年度は38回の開催で254人の参加に対し、2014年度は158回の開催で725人の参加があり、こちらも多くの方に活用されています。

より質の高い サービスの提供を目指す

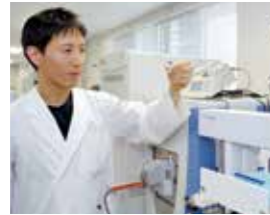
学内にこのような開かれた場があり、機器をシェアできることは、機器を持っていないでも研究ができ、チャンスの拡大につながります。こういった施設を活用して、若い研究者には、ぜひいろいろな挑戦をしてほしい。自由な発想で遮二無二突き進めば、大きな発見に出会えることもあるのですから。本部門がその機会を得る一助となれば大変嬉しく思います。

本部門では今後も新しい機器の導入を検討するとともに、サービスの質の向上を目指します。研究に情熱を注ぐ若い人たちが、自分のアイデアを形にできるように、より一層支援に力を入れていきたいと考えています。



組織概要

名古屋大学大学院医学系研究科および医学部における各種分析・計測機器を集中的に維持管理し、教育・研究および機器利用の効率化を図ることを目的に、2004年に設置。当初、利用者は本学医学部の構成員に限られていたが、2006年から学外者も利用可能になり、利用実績は年々増加傾向にある。2014年、医系研究棟3号館にすべての機器を集約した。



■ バイオイメージング研究室

共焦点レーザー顕微鏡や電子顕微鏡などの各種顕微鏡による超微形態の観察および画像解析

主な機器
共焦点レーザー顕微鏡、蛍光顕微鏡、電子顕微鏡、レーザーマイクロディセクション、電顕・光顕試料作製装置、画像解析装置

■ 分子構造解析研究室

タンパク質やペプチドの定性・定量分析、データベースを利用したタンパク質同定などのプロテオーム解析

主な機器
質量分析計、LC-MS

■ 細胞機能解析研究室

細胞および細胞成分の定量や分布、性状の解析

主な機器
フローサイトメーター、SPR、ITC

■ 遺伝情報解析研究室

DNAとタンパク質の構造決定（配列決定）

主な機器
DNAシーケンサー、超遠心器、分子立体構造解析装置、プレートリーダー

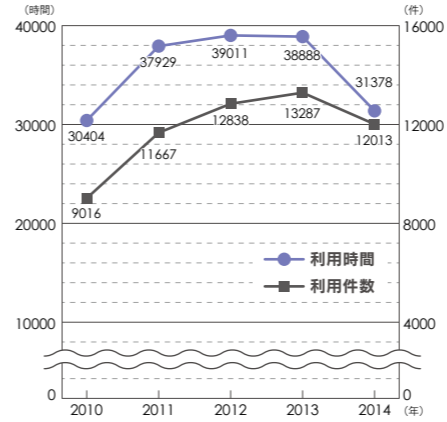
■ 医工連携室

細胞や生体情報の解析を医学部と工学部で連携して行う

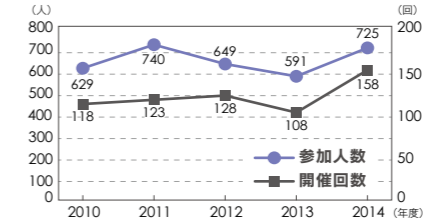
主な機器
FIB-SEM、超解像顕微鏡、生細胞イメージングシステム

実績 グラフ

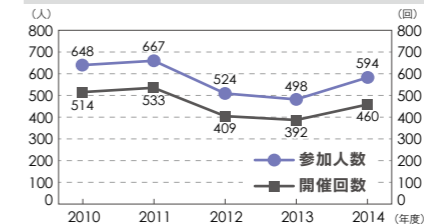
■ 利用実績



■ 講習会シリーズ開催実績



■ 個別講習開催実績



PROFILE

KAIBUCHI, Kozo 貝淵 弘三

1955年生まれ。神戸大学大学院医学研究科博士課程修了。医学博士。名古屋大学大学院医学系研究科附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター教授。分析機器部門 部門長。専門分野は細胞生物学、生化学、神経科学一般。